

【補助事業概要の広報資料】

整理番号 26-4
補助事業名 平成26年度 ICT社会における安全・安心確保に関する 補助事業
補助事業者名 一般社団法人日本教育情報化振興会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

インターネットには危険な面があるということで児童・生徒をそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。

これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導する教員に対し教材を紹介する、講師として指導が可能となるよう育成すること、また、いじめなどが起こる原因はコミュニケーション不足であることから、ICTを活用し自分の意見を相手に伝える、相手の意見を聞く態度を育てるための手法を開発、一方、スマホ保有率が高くなってきているため、ゲームにのめりこむ、食事や入浴中も携帯を離せないなどの依存傾向が増えている。これらの

(2) 実施内容

① 情報モラル指導充実のためのワーキンググループ

(<http://www.japet.or.jp/Top/ActivityReport/netwalk/>)

地域の指導的な立場の教員に対し情報モラルが指導できるよう指導者育成を実施、主に情報モラルやセキュリティに関するセミナーを実施できる指導者を養成、その指導のための教材としてセミナーで使用した教材・情報を提供、さらに家庭等でも「情報モラル」が親子のコミュニケーションの題材となるような新たな事例への対応を盛り込んだコンテンツ等情報の提供を行っている。

ネット社会の歩き方ユニット教材 (<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>)



教材はこんなことをしてはいけないよ」と教えるのではなく、「なぜ、こんなことになってしまったのか皆で話し合おう」というオープンエンドの教材が多く、児童・生徒に少しでも考えさせる場面を提供することを狙っている。



スタジオアッセンブラージュでの学習教材への音入れの様子



ネット社会の歩き方講師育成セミナー（18カ所での開催）

また、当会で実施事業の全国セミナーにおいてもネット社会の歩き方講師育成セミナー実施、1地域ではなく、近隣の教員も対象に広域の活動を実施



② コミュニケーション力育成のためのワーキンググループ

(<http://www.japet.or.jp/Top/ActivityReport/comm/>)

言語は、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であり、子どもの人間性の成長に深く関わっている、そこで、これからの「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」を、学習活動の中にどのように取り込んでいくか、その取組を支援する研修を企画を全国で実施した。今年度は、研修内容の授業へのさらなる定着目指した。

研修は各地域2回開催を基本とし、1回目の研修後各校に戻り授業実践を行い、その成果を第2回研修時に実践報告を実施した。

第1回の研修においてワークショップを実施



第2回研修において実践結果を発表



③ ネットの使いすぎ撲滅のためのワーキンググループ

(<http://www.japet.or.jp/Top/ActivityReport/netboku/>)

あらゆる分野で、大人だけでなく児童・生徒を対象としたネットサービスが提供されている一方で、使い過ぎで心身に異常をきたす児童・生徒の事例も報告されている。一般にネット依存と言われているが、専門家は次の三つに細分化して研究している。

1) つながり依存

- ・メールやSNSで四六時中メッセージを交換していなければ我慢できなくなる状態のこと

2) ゲーム依存

- ・ネット対戦ゲームやソーシャルメディア、SNSに付随しているゲームなどにはまっている状態のこと

3) コンテンツ依存

- ・ショッピングサイトや動画投稿サイトを対象としたネットサーフィンの度が過ぎる状態のこと

いずれの場合も度を超すと病気と診断され、専門的な治療が必要となるが、我々は児童・生徒が病的になる前に発見し、救いの手を差し伸べることができるのではないかと思ひ当事業に取り組んでいる。児童・生徒（大人を拒むものではない）が自分自身で操作入力することで、ネット依存傾向を把握でき、少しでも改善の方向へ進むことができるツールを準備した。

弁別指標の開発

従来、ネット依存の判定には米国のキンバリー・ヤング(Kimberly Young)博士が作成した20項目の指標などがよく用いられてきた。しかし、専門家からは、キンバリー・ヤング博士が指標を作成する際に参考にしたのはギャンブル依存だったことや、前述のようなネット利用の多様化には対応していないなどの点で、現代のネット依存を判定するには、不十分といった意見も挙げられている。

また、各種の調査から、

- ・ネット以外に居場所のある人の方が、ネット以外に居場所の無い人より、利用時間が長い
- ・人間関係に恵まれている人の方が、人間関係に恵まれていない人より、利用時間が長い
- ・スマホの利用時間を調査すると13才(中学一年生)と16才(高校一年生)にピークがある
- ・文科省のH26年度調査では中学三年生の30%程度はネットの利用時間が2時間を超えている
- ・メールよりSNSをよく利用する

がわかっている。「大人が考えるネット依存」と「子どもの考えるネット依存」は異

なるのではないかと仮定し、中学生高校生が考える「ネット依存と思う行動」を聞き取り調査し、指標に取り込むこととした。例えば、

○ながらスマホ(風呂 トイレ 食事 などの際でもスマホを使っている)

○メッセージに対する返答がいつも素早い

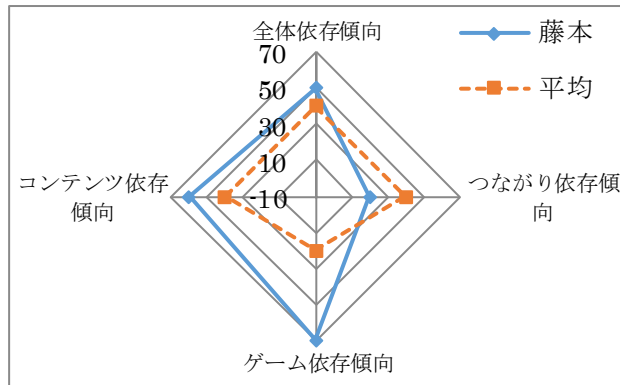
○ゲームキャラの成長レベルが頭抜けている 等である。

これらのことを踏まえ当委員会では、ヤングの指標も参考にしながら、ネット依存の三分類を弁別できる指標の開発に取り組んだ。

弁別指標一覧

No	質問	Yes	No
01	LINE などのメッセージにはどんな時でもすぐに返信する	○	
02	LINE などでやり取りしているとき、相手からのメッセージの返信が遅いとイライラする	○	
03	他のことをしているときでも、LINE などにどんな話題を投稿しようかということばかり考えている		○
04	友だちからのメッセージが気がかりでLINE などを常に確認している		○
05	仲間はずれにされたくないの、気が乗らないときでもLINE などで友だちとやり取りするのをやめられない		○
06	ネットをしているときが一番安心する		○
07	他のことをしているときでも、ついネットのことを考えてしまう		○
08	友だちと過ごすよりネットをしたいと思うことがある		○
09	外で遊んだり課外活動に行ったりするよりも、家でネットを楽しみたい		○
10	ネット上のアプリやコンテンツ(ゲーム、音楽、LINE のスタンプなど)に課金することがよくある		○
11	他にやるべきことがあってもネットをやめられない		○
12	ネットをしていて、気がつくとかかなり時間がたっている	○	
13	現実世界の嫌なことを忘れるためにネットをしている		○
14	ネットをしている最中に邪魔されるとキレそうになることがある		○
15	起きている間中、ずっとネットをしている	○	
16	誰かと話している最中でもネットをしている		○
17	風呂やトイレでもネットをしている	○	
18	歩いている最中や自転車を運転している最中でもネットをしている	○	
19	あと少しと思いつつ深夜までネットをしてしまい、寝る時間が無くなることが多い	○	
20	ネットができないと不安で落ち着かない		○
21	学校の成績が下がった原因はネットのやりすぎではないかと思う	○	
22	よく「ネットのやりすぎ」と注意される	○	
23	ネット以外の趣味や楽しみがない	○	

あなたの依存傾向の詳細



中学生・高校生が自ら入力することで自分の依存傾向を把握できる教材を開発
「つながりチェッカー」 (<http://www2.japet.or.jp/betterlife/>)



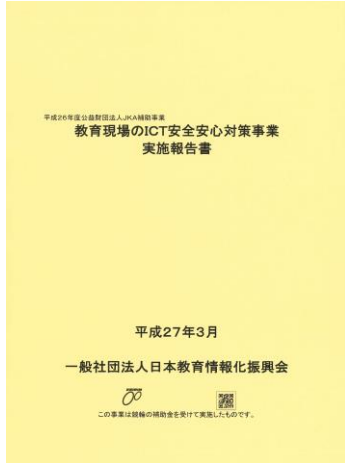
2 予想される事業実施効果

身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒がSNS や無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

JAPET&CEC では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT 安全安心対策事業」を展開している、この活動は広く公開されているため、教育界だけではなく、保護者への啓発としても有効であり、地域、家庭での安心安全への意識を高めることができる。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの



教育現場の I C T 安全安心対策事業実施報告書

(http://www2.japet.or.jp/jkahojo/H26_hokoku.pdf)

教育現場の I C T 安全安心対策事業実施報告書目次

目次	
はじめに	1
第1章	2
情報モラル指導充実のための事業	2
1. 事業の目的	3
2. 作業項目とスケジュール/作業体制	4
3. セミナー開催	6
4. 学習教材開発	16
5. 成果発表会	21
6. まとめ	22
第2章	23
コミュニケーション力育成のための事業	23
1. 事業の目的	24
2. 作業項目とスケジュール/作業体制	25
3. セミナー開催	27
4. 学習教材開発	45
5. 成果発表会	46
6. まとめ	47
第3章	49
ネットの使いすぎ撲滅のための事業	49
1. 事業の目的	50
2. 作業項目とスケジュール/作業体制	51
3. 弁別指標の開発	53
4. 学習教材の開発	55
5. 成果発表会	59
6. まとめ	60

ネット社会の歩き方ユニット教材 (<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>)



「つながりチェッカー」 (<http://www2.japet.or.jp/betterlife/>)



ネット社会の歩き方講師育成セミナーテキスト
「学習ユニット」教材 (zip形式ファイル)



(http://www2.japet.or.jp/net-walk/otona_all.html)

コンテンツが朝日新聞にて紹介された。

「つながりチェッカー」 (<http://www2.japet.or.jp/betterlife/>)

ネット依存、あなたは大丈夫？

- ネットに心を奪われていると感じる
- ネットを使う時間をだんだん長くしないと満足できない
- ネットの制限を試みてもうまくいかなかった
- 制限すると、気持ちが沈んだり、いらいらしたりする
- 使い始めに考えていたより、長時間オンラインで過ごす
- ネットのために、人間関係や勉強の機会などを失いそうになった
- 熱中しすぎを隠すため、うそをついたことがある
- 無気力や不安などから解放される方法としてネットを使う

ドクター抽口の診断

米国の心理学者キンバリー・ヤング氏が考案した、世界でもっとも使われている質問票の一つを改良したものです。自分があてはまると感じるものが3〜4項目あれば、ネット依存の予備軍と言えます。5項目以上だとネット依存の疑いがあります。専門の医療機関を受診するか、都道府県や政令指定市が設けている精神保健福祉センターなどに相談することを勧めます

治療は、カウンセリングを受けたり集団プログラムに参加したりして、生活やネットの使い方を振り返り、自分を見直していくことが軸になる。樋口さんは「依存症でなくても予備軍の人も多い。ネットを使わない時間を意図的に作る。生活のリズムが崩れやすい5月の大型連休などは大敵になる」と指摘する。

樋口さんは「ながらスマホしない」などのルールを家族や学校のクラスで作ることを提案する。スマホを活用するのは問題ないが、自分にとって大切なものは何かをよく考えてほしい。ネットが優先順位の一番にはないはずだ」と話す。(田嶋)

相談ナビ

日本教育情報化振興会のサイト「ネットライフチェック」 (<http://www2.japet.or.jp/betterlife/index.html>) は、質問に答えると「つなが

り」「ゲーム」「コンテンツ」の三つの依存傾向の強さがそれぞれわかる。客観的に自らの行動を見直すのに役立ててもらおうの狙い。

体とこころの通信簿

スマホ依存

生活リズム乱れやすいGW注意

スマートフォン(スマホ)の普及で、会話をせずに画面を長時間のぞき込むことが増えました。手放せない大人も多いですが、子どもが熱中しすぎてスマホ依存になる問題も起きています。新学期が始まって初めての大型連休は生活リズムが乱れてスマホを長時間使

いがちなので、注意が必要です。友人たちと「会話」を続ける、動機口進院長(臨床精神医学)は「依存症という段階まで進むと、自分で解決するのは難しい。放つておく事態はますます悪化する子どもたちも多いという。家族との会話が薄く、成績が落ち込む、来訪する人も多い」と話す。

センターではまず、体力測定や血液検査などを受けてもらう。ネット依存になると体を動かす機会が減り、体力が落ちたり、栄養失調になったりしていることも多い。患者に自覚してもらうことも多い。

11年に「ネット依存治療部」を設けた国立病院機構久米浜医療センター(神奈川県横浜須賀野町)の

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。 Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

朝日新聞 平成27年4月27日 夕刊

平成26年度教育の情報化推進フォーラムレジュメ

(<http://www2.japet.or.jp/seika/>)

JAPET & CEC 主催 平成26年度「教育の情報化」推進フォーラム

<http://www2.japet.or.jp/seika/>

▶ テーマ: いつでも どこでも 学べる世界

▶ 開催日時: 平成27年3月6日(金) 10:30-18:00(開場 10:00) 3月7日(土) 9:30-14:40(開場 9:00)

▶ 開催場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟

▶ 主催: 一般社団法人 日本教育情報化振興会 (JAPET & CEC)

▶ 後援: 文部科学省 経済産業省 総務省 東京都教育委員会 神奈川県教育委員会 埼玉県教育委員会 埼玉県市町村教育委員会連合会 全国町村教育委員会 全国中学校長会 全国高等学校長協会 全国特別支援学校長協会 日本私立中等高等学校連合会 全国高等学校情報教育研究会 独立行政法人 情報通信政策機構 一般社団法人 電子情報技術産業協会

平成26年度教育の情報化推進フォーラムレジュメ（分科会B）

分科会B

分科会Bの趣旨は「教育の情報化推進フォーラムレジュメ」を基に、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。また、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。

1. 趣旨

本フォーラムの趣旨は「教育の情報化推進フォーラムレジュメ」を基に、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。また、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。

2. 今年度の目標

今年度の目標は「教育の情報化推進フォーラムレジュメ」を基に、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。また、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。

3. 事業内容

今年度の事業内容は「教育の情報化推進フォーラムレジュメ」を基に、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。また、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。

分科会Bの趣旨

分科会Bの趣旨は「教育の情報化推進フォーラムレジュメ」を基に、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。また、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。

1. 趣旨

本フォーラムの趣旨は「教育の情報化推進フォーラムレジュメ」を基に、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。また、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。

2. 今年度の目標

今年度の目標は「教育の情報化推進フォーラムレジュメ」を基に、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。また、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。

3. 事業内容

今年度の事業内容は「教育の情報化推進フォーラムレジュメ」を基に、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。また、教育現場での実践的な取り組みを共有し、相互に学びを促すことにある。

(2)(1)以外で当事業において作成したもの
特になし

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 一般社団法人日本教育情報化振興会
社名： ニホンキョウイクジョウホウカシンコウカイ
住所： 〒107-0052(半角)
 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階
代表者： 会長 赤堀 侃司 (アカホリ カンジ)
担当部署： 調査研究事業部 (チョウサケンキュウジギョウブ)
担当者名： 総務部担当部長 赤松伊佐代 (アカマツ イサヨ)
電話番号： 03-5575-5365(半角)
F A X： 03-5575-5366(半角)
E-mail： akamatu@japet.or.jp
U R L： <http://www.japet.or.jp/>